

第77回
山形県PTA研修大会
新庄・最上大会
令和7年10月18日（土）
於 新庄市民文化会館
新庄市立新庄中学校

大会主題

ウェルビーイング

～子ども・家庭・地域のしあわせのために大人が変わる～

県内各地より約600名の参加者が集まり、全体行事・基調講演・分科会の日程で大会が実施されました。全体行事では、感謝状・表彰状・広報紙コンクールの表彰・贈呈も行われ、大会宣言は満場一致で承認されました。基調講演については、PTA関係者に限らず地域の方などに広く周知し、興味がある方々に参加いただきました。また、今年度は分科会を実施し、講師や参加者同士と交流しながら研修を深めました。

会長挨拶 要旨



山形県PTA連合会 会長 長谷川 吉之介

私たち大人は、子どもたちの「しあわせ」のために、何ができるかを考え、行動をしていくことが求められています。家庭、学校、地域が手を取り合い、誰一人として取り残すことなく、子どもたちが安心して学べる場を整え、PTA自身の学びと活動を活発にしていきましょう。この大会が、子どもたちの未来のために、私たち大人が変わるきっかけになることを心より願っております。

基調講演 要旨

『子どもの邪魔をしない教育と、次の社会のためのヒント集』

「トーキョーコーヒー」代表 吉田田 タカシ 氏

『アトリエe.f.t』のミッションは、全ての人を『アーティスト』にすること。アーティストとは、「自分の道を自分でつくる子ども」「わくわくする社会をつくる大人」。ものも人生も地域もしあわせな価値観さえも、自分でつくっていい。正解信仰（物事に正解があるという思い込み）を捨てる。生きていくことやしあわせになることに正解はない。答えは自分でつくっていい。「自分たちで決める」ことはこれからの教育で重要なこと。

「主体性・意欲」（幹）=生きていくんなどいう力の土台（根っこ）は、「安心・自信」=居ていいと思える力。「ここに居ていい、生きていていいんだ」と思える力を、無意識の奥にしっかりとした柱としてつくることが教育。すべての大人は、子どもが居ていいんだという環境をつくる。これができると「主体性・意欲」（幹）が伸び、何もしなくとも勝手に「発想力」「表現力」などの力（枝葉）が伸びていく。主体的に取り組むと子どもは何からでも学ぶ。

主体性をなくすのは簡単。朝から晩までずっと叱ること。大人が鞭を入れると子どもは前に進むが、鞭を入れられなくなったら無気力になり、何もやらない。大人が叱り、先回りして過干渉・保護すると、主体性がなくなっていく。叱っていけないわけではない。子どもには子どもの社会があり、その中で生きていく力を学ぶ大事な瞬間がある。子どもが身をもって学ぼうとしていることを先回りして奪わず、できるだけ子どもの社会を壊さないでおこうと、叱る基準について合意・約束事があればいい。

『まほのだがしや チロル堂』は、子どもの食事を支えているように見えて、大人が意識を変えている場所。大人同士がつながり、しあわせな社会について学び合っている。『トーキョーコーヒー』では、子どものための場所ではなく、大人が楽しんでつながりを取り戻す場所をつくった。子どもが安心する条件は「お父さんとお母さんが笑っている」こと。大人が楽しそうにしている、何かに挑戦している姿を見て、子ど





もは安心する。ここでは、子どもは何をやっていてもいい。自分の存在を、自分も周りも肯定して、その先に意欲が生まれてくる。

世の中の様々な課題を根本的に解決する方法が教育。「アーティスト=自分の道を自分でつくる子ども・わくわくする社会をつくる大人」をたくさん育てていくことが、様々な課題を解決するたった1つの方法。子どもたちに裁量を渡して、「自分で決めていいんだ、自分でこれから的人生をつくっていいんだ」と子どもが思える教育をしていく。

分科会 要旨（講師講話・グループ協議より）

第一分科会 「家庭におけるウェルビーイング」 テーマ「自己肯定感を高め合う家庭教育の大切さ」

講師 武田 靖子 氏（株式会社ジョイン専務取締役）

- 子どものウェルビーイングの土台は、家庭での親の関わり方。心の安定と自己肯定感は、大人からの無条件の受容（「あなたがいるだけで嬉しい」）によって育まれる。
- 家庭で実践すべき具体的な行動は、「傾聴」「成功体験の承認」「親が先に行動する」「勇気づけ」。これらは、一日一回でも継続することが重要。
- 実践の核となるのが日々の対話。そのための三原則は、「共感（受け止め）」「承認（結果より存在やプロセスの承認）」「余白（子どもが考えを整理する沈黙を待つ）」。
- 大人が笑顔でいること、ぶつかっても仲直りする姿を見せることが、子どもの「世界は暖かい」という土台を作る。



第二分科会 「学校におけるウェルビーイング」 テーマ「一人一人の居場所がある学校にするために」

講師 藤田 貴敏 氏（最上地区小学校長会幹事）

- 学校で心がけていることは、「主体的な子に育つように工夫」「多様性に対応するよう努力」「自分と他者を大切にするように指導」。
- 事例【主体的】自分で選んで、自分のペースで学習・行事、挑戦の場をつくる等
【一人一人への対応・居場所】校内・地域どこでも居場所づくり等
【安心】失敗してもいい、失敗を笑わない、他者の承認、自己肯定感等
- 子どもがやりたいことをやらせて、親も楽しみたい。（趣味、イベント、旅行等）
- 大人が機嫌よくいることが子どもにとっていい。子どもの前ではネガティブなことを言わない。



第三分科会 「地域におけるウェルビーイング」 テーマ「子どもを守り、育てる地域コミュニティ」

講師 松井 愛 氏（大郷小学校での居場所づくり「ほっとるうむ」共同代表）

- 『ほっとるうむ』のねらいは、「子どもや保護者が安心して立ち寄れ、学校につながり続けられる環境をつくること」「教員以外の大人が複数関わることにより、子どもや保護者への支援をより豊かなものにすること」。
- 居場所の条件は、「ほっと一息つける」「会いたい人がいる」「肩書きを外せる」「思いを自由に表現できる」「その場に関与できる」「役割がある」。
- 不登校の要因を探るという視点よりも、環境づくりをしていくことが大事。
- やらされるより、自分たちの思いを形にする楽しいPTAに。大人が楽しんでいる姿を見せるとよい。



第77回山形県PTA研修大会新庄・最上大会

【発行】令和7年12月 【編集】第77回山形県PTA研修大会新庄・最上大会 実行委員会